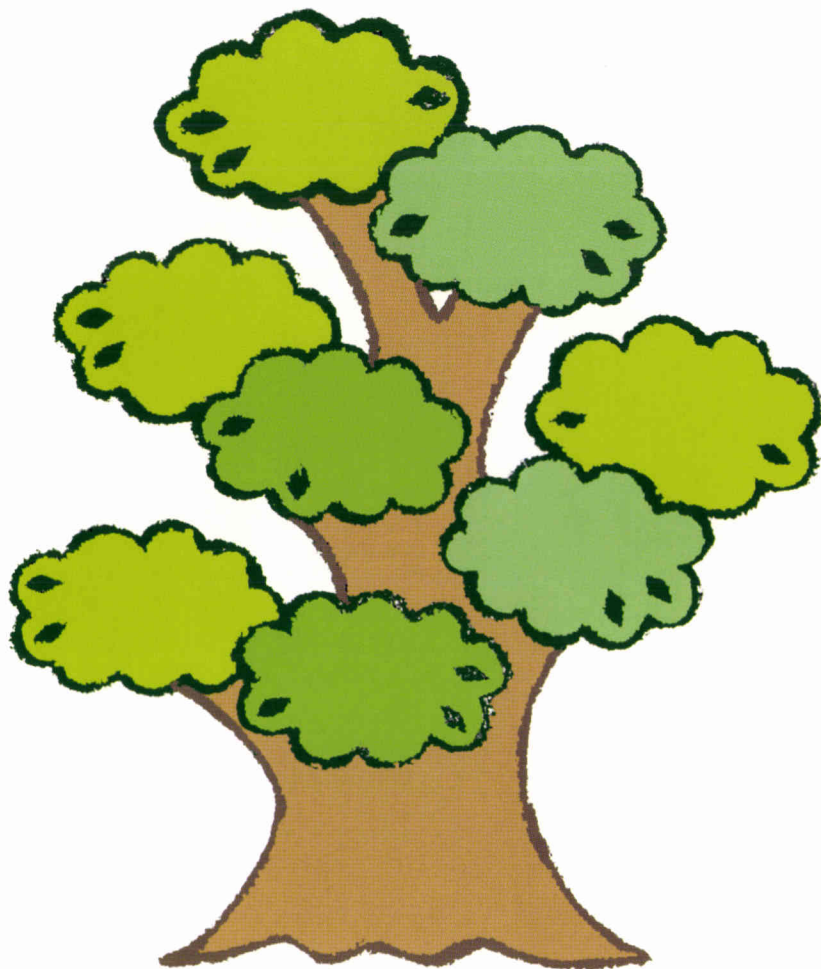


神の民
LAOS講座 第6号

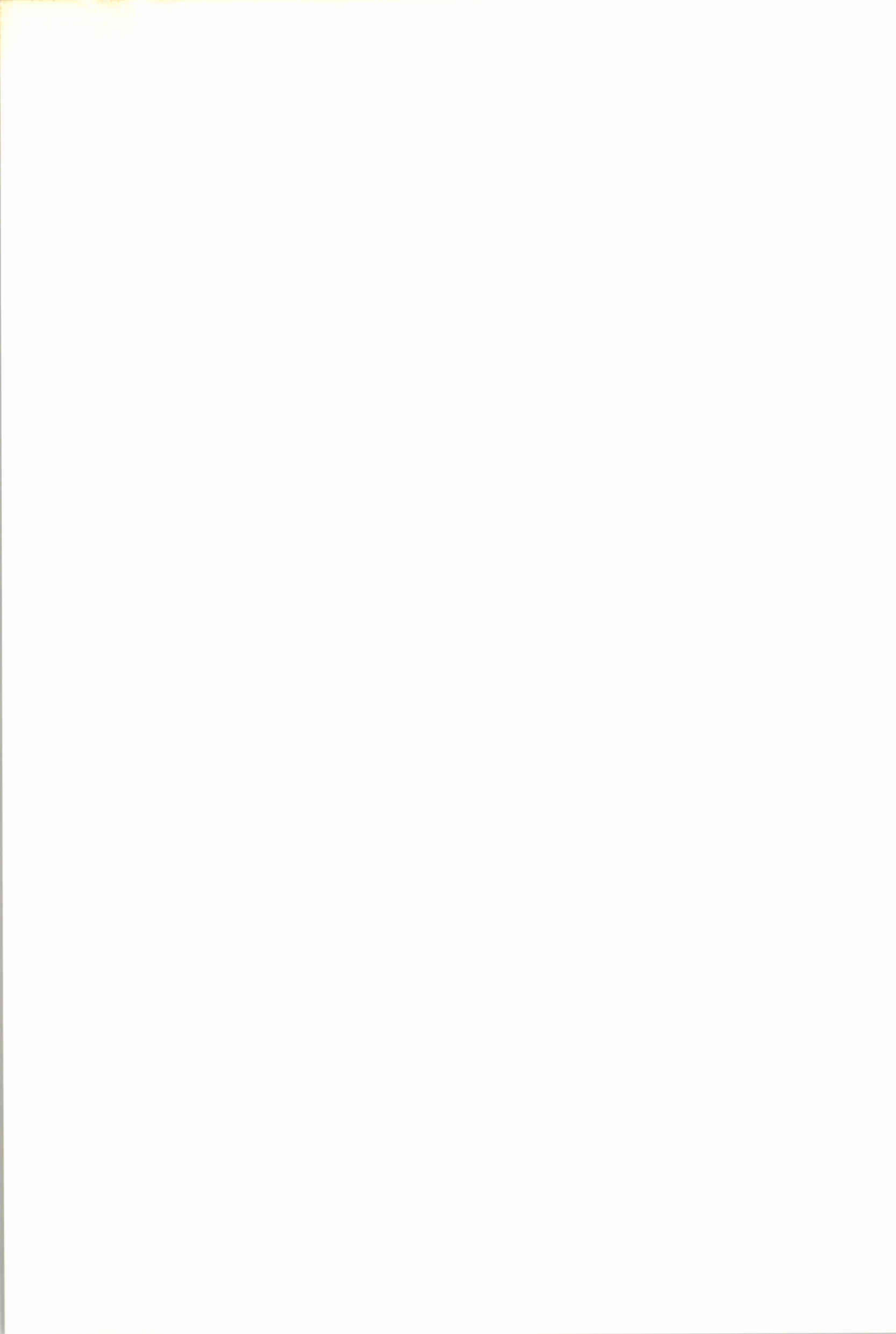


いなご豆の木

— 信仰の継承 —



日本福音ルーテル教会



神の民 LAOSの樹

⑧「世界」の中のキリスト者

家庭と職業への召命
キリスト者と生命倫理
キリスト者と社会問題
人権・正義・平和・環境保全
情報化/グローバル化

⑦宣教と奉仕の理論と実際

教会は「宣教共同体」
神の民・「信徒と教職」
宣教と奉仕の具体像
牧会的カウンセリング
教会のディアコニア

⑥信仰継承

旧約聖書に見る信仰継承
小児洗礼と親・教保・教会の役割
堅信教育モデル
教育カリキュラム
祖先と死者の記念

③教理問答・諸信条

小教理問答書の展開
アウグスブルク信仰告白
ニケア信条と教会再一致
義認の教理とルーテル教会
日本の社会・文化の中で
信仰を告白すること

⑤教会の歴史

初代教会の歴史
宗教改革の展開
現代教会の流れ
JELCの歴史
自分の教会の歩み

②説教の聴き方・語り方

聖書日課(バリオペ-)の意味
説教の主題発見
説教の構成と表現
霊的な奉仕への召命
説教の展開としての牧会

④「聖書」とその読み方

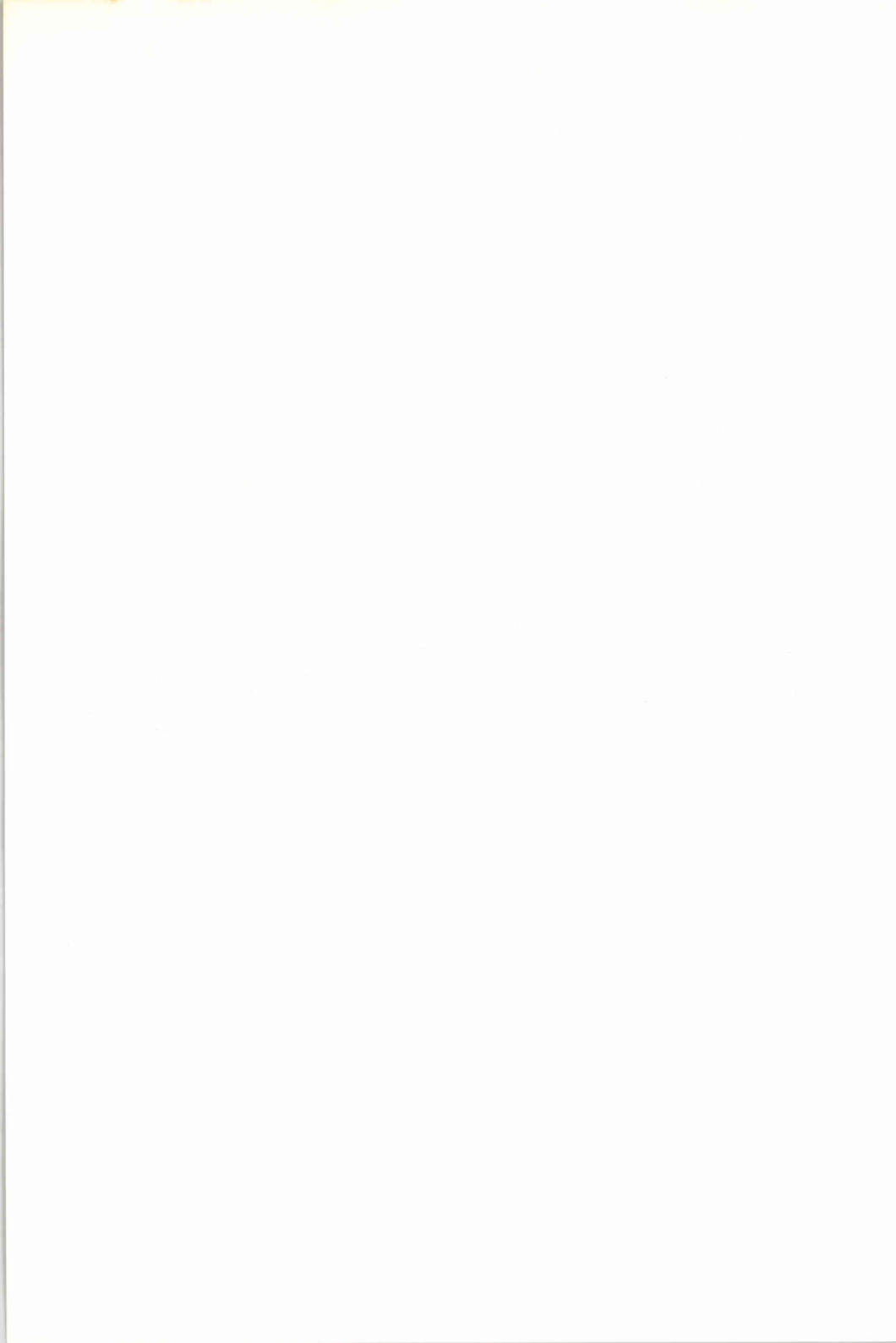
「聖書」の読み方
救いの歴史の道筋
聖書の各書を読む
聖書とその周辺
「私」の聖書ノート

①礼拝の意味と実践

教会は「礼拝共同体」
教会の暦と礼拝
礼拝と音楽・会堂建築
式文の構成と会衆の参加
公同礼拝の司式者の役割

祈り・聖書

礼拝共同体
家庭と社会
宣教共同体



もくじ

★ LAOS 講座へのお招き	3
はじめに.....	5
1. 信仰継承って必要なの？	
教会の「エンゲル係数」と「エンジェル係数」.....	7
あなたの教会のエンジェル係数はいくら？.....	8
いったいどこに問題があるの？.....	9
信仰は継承できるのか？.....	10
2. 聖書に見る信仰継承	
旧約聖書から.....	12
新約聖書から.....	14
3. 伝えることってどんなこと	
「教える」ことから「伝える」ことへ	17
まずやってみよう.....	17
一方的でないこと.....	18
神学者P.ティリッヒの言葉	19
「発見・驚き・感動・楽しさ」を礼拝の中へ、 そして子どもたちと共に.....	20
4. 小児洗礼と親、教保、教会の役割	
洗礼って何？.....	22
アウグスブルク信仰告白によれば.....	23
小児洗礼って必要なの？.....	23
親・教保そして教会の役割.....	25
親として・家族の中で.....	25
教保とは？.....	26
5. TNG (The Next Generation) 委員会の働き	
TNG が目指すもの	29
TNG 委員会の目標	31
TNG の具体的活動	32
A) 幼保部門	
「誕生日カード」	32

「子育てサークル」	32
B) こども部門	
「CSカード」	33
「CS準備ノート」	33
「クリスマス福 in 袋」	33
「C・ポスト」	34
「ルーテル国際少年少女キャンプ」	35
C) Teens 部門	
「Teens Times」発行	35
春の全国ティーンズキャンプ	35
Teens Web サイト	36
メルマガ	37
グループワークキャンプ	38
D) Youth 部門	
Youth の自主的な活動（全国青年連絡会議→ JelcyNet） へのサポート	39
Youth の信仰リーダー育成	40
エキュメニカル学生青年活動への関わり （NCC 青年委員会）	40
E) 青年会 EX 部門	41
F) 道草くらぶ（TNG サポーター）	41
G) これからの TNG 委員会	
教材開発とその利用	42
全国堅信キャンプの模索	42
TNG 各部門へのスタッフ育成	43
参考資料	
A ある教会の堅信教育プログラムの実例から	
(1)「堅信教育モデル」（クリスチャン・ライフ・カレンダー）	44
(2)「堅信教育プログラム」	46
(3)「堅信教育カリキュラム」	47
B サムエル・ナイト	50
★おわりに	51

LAOS 講座へのお招き

信徒としてよりよく生きるために共に成長していこう

信徒としての成長を

キリスト者として生きようと決心しました。それは、イエス・キリストを通して神さまから与えられた十字架と復活の福音を信じ、洗礼を受けて、教会の交わりの中に入れていただいたからです。求道者会、洗礼準備会での熱心な学び、兄弟姉妹に見守られながらの洗礼式でのあの感激を懐かしく思い出します。あの時言われた言葉、「洗礼はゴールではなく、スタートですよ」もまた忘れられません。しかし、その後の今日に至るまでの信仰の歩みを振り返るとき、聖書についても、信仰者としての教会と社会の中での生き方についても、もっともっと学びを深め、実践していきたいと思わないではいられません。—これは、多くの教会員の方々に共通する思いではないでしょうか。信徒としての成長、このことは自分自身にとっても、また教会にとっても、非常に大切なことです。

ルーテル教会としての決心

私たちが属する日本福音ルーテル教会 (JELC) は、「福音に生き、社会に仕え、証しする」をスローガンとする、「JELC 宣教方策21」(パワーミッション21、略称 PM21) を2002年5月の総会で採択しました。福音に生かされて生きる。社会に仕え、そこに住む一人ひとりに仕える。十字架と復活の主イエス・キリストとその恵みとを大胆に証しする。そういう教会、そういう信徒になろうと教会全体で決意したのです。

全体教会の方策は、個々の教会で具体化されることではじめて実を結びますし、個々の教会でということは、一人ひとりの信徒が兄弟姉妹みなと共に手を携え、祈りを一つにしながら、実践していくことで本当の形をとります。「キリストがあなたがたの内に形づくられるまで」(ガラテヤ4:19)、その日までともどもに信徒として成長していきましょう。パウロはこうも言っています、「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者になっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです」(フィリピ3:12)。

LAOS (ラオス) として

PM21の第二プロジェクト (P2) の目標は「証しし、奉仕する信徒になろう」です。そこで検討の結果、そのような信徒になっていくために、信徒としての受洗後の教育、生涯かけての成長のための教育のプログラムを用意しようということになりました。そして、それを「LAOS 講座」と名づけました。LAOS (ラオス)、それは、新約聖書が書かれたギリシャ語で「神の民」(ラオス・セウ) という言葉の「民」という言葉です。わたしたちは神の民、信仰の共同体、礼拝共同体、宣教共同体です。そのなくてはならない一員です。この講座の特徴は、個々の信徒の内的、霊的成長というのに留まらず、むしろ共同体の中で、共同体と共に成長する教会的信仰また生き方を目指している点です。LAOS という言葉から英語の信徒 laity という言葉もできたのですが、この講座は信徒こそ教会の中心であり、教会そのものだという考えに貫かれています。

証しし、奉仕する信徒になる

「証しし、奉仕する信徒」になっていくためには、知的な学習をすればそれで十分なわけではありません。この「LAOS 講座・第一期」でキリスト者としての基礎的な知識を習得したあと、さらに「第二期」で、より実践的な学びをして「証し」と「奉仕」を生きていく信徒へと成長していきましょう。そのためには、既存の書物から学ぶというだけでなく、実際にそのような生き方をしている兄弟姉妹からも積極的に学んでいきたいと願っています。

教会の輪の中で

「LAOS 講座」の第一期の学びは別掲の「LAOS の樹」にそのカリキュラムが載っています。その冊子を継続してご購入いただき、教会の諸集会で、学びを進めていってください。成果を分かち合い、そこで得たものを生活の中で生かし、足腰の強い信徒になっていきましょう。

2005年3月

日本福音ルーテル教会宣教方策21 (PM21)
プロジェクト2 (P2) 委員会

はじめに

ユダヤの伝説に次のような話があります。

ある学者が田舎に行きました。一人の男が、何かの木を植えていました。学者は「**今、植えているのは何の木ですか**」と尋ねました。「これは、**いなご豆ですよ。おいしい実がなるのです**」と男は答えました。学者は「実が食べられるようになるまで、どのくらいかかるのですか」と聞きました。「そうですね。70年でしょうか」という答えが返ってきました。「えっ!?!70年。君は、そんなに長生きできると思うのかね。君が植えた木の実は、人のものになるのではないか。君が収穫とともに、実を味わう喜びを持つためには、もっと早く実のなる木を植えるべきではなかったのかね」と学者は言いました。男は黙って植え続けました。学者がまだ見ているので言いました。「旅の方よ、私は、この世に生まれてきたとき、いなご豆の木を見つけ、それを取って食べました。もちろん、私が植えたものではありません。私の親の親が植えたのです。**私は、祖父が植えたものを食べただけです。それも何の労苦もせず。そこで私は、自分の子のために、いや孫のために木を植えているのです**」。

信仰の継承を考えると、この話を思い出します。今、私たちに受け継がれている信仰は、遙か長い歴史の中で途切れることなく受け継がれてきたものです。最初の信仰の種は、もちろん神様が植えてくださいました。その信仰の種は、数え切れないほどの人々の手によって受け継がれ、**今、私たちのところにあります。この信仰の種をあなたはどうしますか**。「私たちの子どもたちに、この信仰を受け継ぎたい。伝えたい」と思いませんか？すべては、そこから始まっていくのです。

私たちのルーテル教会は、パワーミッション21という宣教方策を決議しました。たくさんのやらねばならないことの**最優先方策として、次世代の育成と宣教**を挙げています。宣教百年を機に、小学生対象のこどもプロジェクト・全国中高生キャンプ・全国青年修養会の後押しもなされ、その活動がTNG委員会（次世代を育成する委員会）としてまとめられていきました。TNG*とは、The Next Generationの略語です。組織化された委員会の下、たくさんのプログラムが展開されています（後述参照）。しかし、信仰を継承していくことは「伝える」という課題を持ち、どうすれば信仰を継承していくことができるかを考えねばなり

ません。この講座では「伝える」ことを学びながら、信仰の継承を考えてみたいと思います。

***TNG**

The Next Generation 直訳すれば「次の世代」。明日の教会を担う子どもたち、青少年の育成運動の愛称。

1. 信仰継承って必要なの？

「私たちの教会から、子どもたちの声がなくなりました」「教会学校が盛んなときは、子どもたちの声に悩まされていましたのに」「子どもたちは忙しいから教会へは来ませんよ」という声を最近耳にしました。そういえば、教会の中から子どもたちの存在が消えかけている。そんな気がしてきます。私たちの教会はどんな教会なのだろう？そういう疑問も生まれてきています。

教会の「エンゲル係数」と「エンジェル係数」

2004年に、宣教室から教会分析のひとつの参考にと、あるデータが出されました。教会の「エンゲル係数」と「エンジェル係数」です。本来、「エンゲル係数」というのは家計に占める食料費の割合ですが、ここでは、教会での基礎収入（礼拝・維持・特別献金）に占める牧師給の割合を出したものです。多くの教会が70%を超え、教会の維持、管理の予算だけでいっぱい、伝道費が十分に取れない現状になっています。一般の会社ならば、すでに倒産ということになりますが、教会には倒産はありません。しかし、十分な宣教態勢になっているかどうかが問われていると思います。

*エンジェル
angel=天使のこと。

そして、問題となるのが「エンジェル*係数」です。教会の子どもたちを**天使（エンジェル）**になぞらえて、**教会員数における19歳以下の割合**を出したものです。もっとも教会には、この係数には含まれてない19歳以下の子どもたち（洗礼を受けてない子どもたち）もいますが、教会の中の子どもの声の大きさは、この数字の大きさに比例していると言えます。

しかし、少ないエンジェル係数とは逆に、多い数値もあります。それは60歳以上の割合です。この年代の方々を「シメオン・アンナ*係数」と呼ばせていただけるなら、その数値はいくらになるでしょうか。

あなたの教会のエンジェル係数はいくら？

果たしてどのくらいの割合が適当な数字でしょうか。20%？ 15%？ どの教会もその位の数字は欲しいものです。しかし実際のデータでは、**全体教会でも2%しかありません。ほとんどの教会で0.2~0.3%でした。0%という教会も少なくありません。10%を超えている教会は132教会中の4教会だけなのです。**

ここ数年、この数字が急速に下がっています。子どもの声が聞こえなくなったのは、気のせいではなく、事実そうなのです。私たちの教会は、これから5年後、10年後には、どうなっていくのでしょうか。**せめて20%はいて欲しい**ものです。

一方、「シメオン・アンナ*係数」を見ると**42%を超えています**。この数字は全体教会の平均で、各個教会では、100%という教会が30を超える勢いなのです。

*シメオンとアンナ

誕生直後、神殿にお参りに連れてこられたイエス様を抱きあげて祝福し、これで「安らかに去らせてくださいます」と言った老人がシメオン。神殿にいた女預言者アンナは84歳だった（ルカ2:22-38）。

〈話し合いのために〉

- ①私たちの教会の年齢構成はどうなってるの？
- ②全国の統計表のグラフと見比べてみよう！
- ③私たちの教会はどんな特徴を持っている？



いったいどこに問題があるの？

「私たちの教会は、私たちの時代で終わりになっても構いません」「子どもたちは自分で信仰を選び取るもので、押し付けるのはどうか」「信教の自由というものがある」とにかくいろいろな声が聞こえてきます。確かにそうだと納得してしまいます。しかし、信仰継承は未来の教会の存続のためだけにあるのでしょうか。そうではありません。

私たちルーテル教会が目指す信仰継承は、教会存続の危惧からだけ考えられている問題ではありません。**今の子どもたちに最も必要なものは、福音だと思ふのです。**神様が本当に私たちを「大切な存在」だと思ってくださっていることを伝えたいのです。子どもたちは未来の教会ではなく、今の教会なのです。**今、苦しみ、悩み、痛んでいる子どもたちの魂に福音を届けたいのです。**

さあ、私たちの周りを見てみましょう。子どもたちはどんな存在ですか。同級生の命に手をかけなければならないほど追い詰められていませんか。家庭はどうですか。地域では受け容れられていますか。一人ぼっちで寂しく生きていませんか。私たちキリスト者にできることは何でしょうか。それは、救われた喜びを伝えることではないでしょうか。「私はイエス様に出会ってこんなに救われました。」「神様の御言葉がこんな私を支えています。」それを伝えたいと思いませんか。もちろん自分で探し当ててほしい、自分で出会ってほしいと思います。しかし、私たちは、**出会いのチャンスを与える使命を神様から受けている**と思いませんか。

迷い、悩み、苦しんでいる現代の子どもたちへ、ぜひ福音を伝えましょう。この願いがある

かどうかが、信仰継承にとって一番大切なことなのです。

信仰は継承できるのか？

これはとても大切な問いです。「信仰を継承する」という中に、すでにたくさんの要素が含まれています。まずは「継承」ということです。これには「継承される」側の人たちと「継承する」側の人たちがいます。それはどのような関係なのかということも必要でしょう。これを考え始めると、たくさんの事柄に言及しなければなりません。

信仰継承の場合には、おおまかに2つのパターンが考えられます。教師が生徒へ（教会学校）、牧師が信徒・求道者へ（聖書研究・勉強会）、信徒が求道者へ（家庭集会）。**いわゆる伝道を目的としたパターン**があります。よく考えると、私たちの教会は、現在こちらに重点を置いているのではないのでしょうか。といっても、最近では、それさえも元気をなくしかけているように思われます。

一方、もう一つのパターンは、親から子へ、祖父母から孫へ、兄弟姉妹から兄弟姉妹へといった、**いわゆる信仰継承**。歴史をもつ欧米社会の教会は、ほとんどがこのパターンであるように思えます。

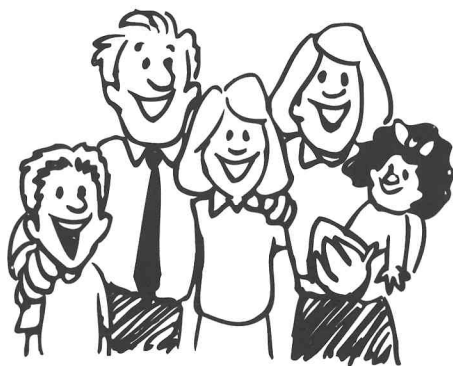
本来ならば、すべての教会が成長した教会となり、信仰共同体としての教会を構築していきたいと思うのです。しかし、現実はどうでしょうか。自分の家族へ信仰を継承することの難しさを私たちは知っています。そんなに簡単なことではありません。それでも、そこに目を向けていこうというのが、今の私たちのルーテル教会なのです。

今、教会は、2つのパターンを同時に行うことを考えています。自分の家族や子どもに信仰を伝えることと、まだ教会に接点がない子どもたちへも同時に信仰を伝えたいと考えています。そのためにさまざまなプログラムがTNG委員会として始まったのです。

「信仰継承」とは、キリストによる希望と救いの福音を次の世代に伝承しようとすることです。

〈話し合いのために〉

- ①あなたは、1代目クリスチャンですか？ 2代目？ それ以上？
- ②あなたの信仰にとって、一番強い影響を与えたのは誰ですか？
- ③自分の意思で教会へ行った人、親の影響で教会へ行った人に分かれて、それぞれの思いを話し合ってみましょう。
- ④お互いの問題意識や、気がついたこと、気がつかなかったことなど、出し合ってみましょう。



2. 聖書に見る信仰継承

聖書の中には、きちんとした教育理念、信仰継承理念があります。特に旧約聖書を見ますと、昔からイスラエル民族が、いかにたくさん
の時間とエネルギーを使って信仰教育・信仰継承に力を入れてきたかがうかがえます。それらを少し見てみましょう。

旧約聖書から

旧約聖書の中での教育熱心な点は、早速第一巻の創世記から始まっています。「私たちは、この自然とともにどのように神様に造られたのか。どのような存在なのか」、天地創造、創世記の1章1節から記されているからです。これは、私たちが受け継いできた信仰継承の表れだといえます。

旧約聖書の中で、一番はっきりと信仰継承の方法を知ることができるのは、「過越の祭り」の中だと言えます。過越の祭りとは、モーセを通してイスラエルの民がエジプトから解放された出来事を記念して、毎年神様に感謝する祭りです。イエス様の最後の晩餐も、この過越の祭りの食事の中で行われました。今では、受難週にこの過越の食事の礼拝を守る教会も増えてきました。

出エジプト12:25-27

さて、その過越の祭りの儀式の中に次のようなものがあります。その家庭の中で最年少の子どもが、過越の祭りの謂れについて、父親に4つの質問をします。それに対し、家長である父親は、聖書の中から過越の伝統を読み聞かせるのです。ここが、この過越の食事の一番の教育的部分なのです。「また、主が約束されたとおりあなたたちに与えられる土地に入ったとき、

ヨシュア4:3-7、20-21、
22:34、24:25、その他

この儀式を守らねばならない。また、あなたたちの子供が、『この儀式にはどういう意味があるのですか』と尋ねるときは、こう答えなさい。『これが主の過越の犠牲である。主がエジプト人を撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越し、我々の家を救われたのである』と。」ここにも「問い」と「答え」によって、信仰の継承がなされてきたことがうかがえます。

また、神様の偉大な出来事を記念するために、何回も好んで石を積み上げて、祭壇や記念の塚を作っています。これらもすべて、子孫が「これは何か」と聞いたときに、神様が私たちにどんなことをしてくださったか、その歴史を教えること、伝えるためだということです。こうやって見ていきますと、「これは何」という問いを持つようになると導いていく、具体的な仕掛けをたくさん持っているということでしょう。そういう思いで聖書を読んでもみますと、出エジプト記は、40年に亘る荒野での生活のすべてが、教育そのものだと言ってもいいかもしれません。

また申命記を見てみましょう。ユダヤ教の信仰継承において有名なところは申命記6章4節～9節までの「シェマー」（聞け）です。

申命記6:4-9

「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。

あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、

子供たちに繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起

きているときも、これを語り聞かせなさい。

更に、これをするしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。」

ここで大切なことは、まず**親自身、大人自身が、全人格をもって愛しなさい**ということです。そして**親や大人は、子どもたちに神様の御言葉を伝える責任を、神様に対して負う**ということです。信仰を継承するということは、神様に対して責任を負うということになります。具体的には、子どもたちに**神様の言葉を「繰り返し教え」「語り聞かせる」ことの責任**だということです。実際、現在のユダヤ人たちも同じように実行しています。例えば、イスラエルに行くと、メズーサというものが入り口の扉にあるのを見ることができます。これは主に、申命記6章4節～9節を書いた紙が入った筒のようなもので、それを戸口に置き、出入りの時に触って祈るのです。つまり、この言葉を文字通り実行することによって、信仰を継承してきたのです。

生活の中で、親や大人が、まず全人格をもって神様を愛し、それを示し、繰り返し教え、語り聞かせるという実行そのものが、信仰の継承の手段であり実現だと言えます。

新約聖書から

新約聖書の中で言えば、**イエス様自身がすでに素晴らしい教育者であった**ことが記されています。民衆は初め、イエス様のことを、「古代にみられた巡回ラビ」や「預言者の再来」のように思ったことでしょう。いずれも民衆のため

の教育者として。その部分はイエス様の説教によく表れていると言えます。

イエス様はとにかく、**具体的な内容、生活に密着した話、とてもユニークなたとえ話などを使って民衆に福音を説いておられます。**この魅力により、何千人という人々が、寝る間も惜しんでイエス様の後を追ったのです。その中でも、福音書の中に70近いたとえ話が伝わっていることは大変ありがたいことです。

そのたとえ話を通して、私たちは、やはり「問い」を持つのです。「あなたはどうか」で始まる話などは特にそうです。まず私たちの中に問いが生まれ、それを問うプロセスの中で、初めて福音という答えが与えられるのです。それは、たとえ話だけでなく、イエス様との出会いによって救いへと招かれた多くの弟子たちや、ザアカイ、マグダラのマリアなどの話も、「なぜこの人たちは悔い改め、救われたのか」という問いを持って初めて、福音を福音として受け取ることができる答えとなるのです。

そういう意味では、福音書そのものが信仰継承であり、その方法は初代教会の中でも引き継がれてきました。信仰問答書などは、おそらく長い歴史の中で培ってきた信仰継承の最も確かな方法だったと言えるのです。

また、私たちが洗礼準備のときに使用するルターの「小教理問答書」を覚えていますか。信仰の基本的な学びのために、あの短い文章をまとめたルターは、問答形式を採用しています。翻訳の問題もあるでしょうが、まだ小さい子どもがお父さんに「これって何？」と聞きます。するとお父さんは「～だとお父さんは信じているよ」と答えています。とても素晴らしい方法

だと思えます。

〈話し合いのために〉

- ①旧約聖書は信仰継承をどのように考えていますか？
- ②新約聖書の中で、イエス様の御言葉の伝え方から何を学びますか？
- ③聖書の中にある「問い」と「答え」を探してみましょう。

3. 伝えることってどんなこと

「教える」ことから
「伝える」ことへ

神学生だった頃のことです。礼拝後、一人の小さな天使（園児）が私の所にやって来ました。そしてこう言ったのです。「先生は、自分の話を自分で聞いて楽しいと思う？」ガ〜ン！ショックでした。そのときの「天使の言葉」は、今でも私の宝物です。

そして、こう考えたのです。今までイエス様の言葉を「教えること」に重きを置いていたが、それでは自分が聞いても面白くない。イエス様の言葉を、共に感動し、驚き、発見することが大切なのだと。自分が楽しい、感動したということを素直に「伝える」のだと！ここから、イエス様の御言葉を子どもに伝えるチャレンジは始まったのです。まさに「教える」ことから「伝える」ことへの方向転換でした。

「教える」と「伝える」ことはどう違うのでしょうか。まずは、私たちの発想を変えてみる必要があります。教えることは一方的な要素が強いのですが、伝えることは相手との関係が大切だと思うのです。伝言ゲームを考えてみてください。一方的に伝言された内容では伝わりにくいことがわかります。もしあのゲームが、互いに会話をしてよいというルールであれば、もっと確実にもっと正確に伝わっていくのではないのでしょうか。もちろん、伝言ゲームは、なかなか伝わらないことが面白いのですが、信仰は伝わらないといけないと思うのです。伝える練習もしなければなりませんね。

まずやってみよう

それでは、読者のみなさんもやってみましょう。一番簡単なことから始めてみます。誰でも

できる自己紹介をしてみましょう。長くすればいいというものではありません。制限時間は3分間です。わかりやすく「自分とは誰か」を伝えてください。横にキッチンタイマーを置いて始めます。どうです？ 3分間って長いでしょう。と言うことは、**3分あればかなりのことが伝えられるのです。もっと言えば、3分でまとまらない話は、いくら長くても分からない**ということなのです。一方的な話は、10分聞いたらもう大変なのです。

自己紹介で大切なことは、次の4つのポイントです。1) あいさつ 2) 自分は何者か 3) 自己アピール、名前の由来、趣味など 4) この場に期待すること。これがいわゆる**「起」、「承」、「転」、「結」**です。話は、どんなものでも**「起承転結」**が必要です。例えそれが子どもたちへのお話であっても、これを無視すると伝わりません。自己紹介を何度でも練習してみてください。どのように伝わっていきますか。本当に伝わりますか。それができればあとは簡単です。この場合、自分が誰かということ伝える大切なポイントは、自分に興味を持ってもらうように話すということです。内容も大切ですが、「この人って面白い人だな」と、少しでも興味を持ってもらうと、あとはスムーズに会話も成り立っていきます。やはり、相手の中に、何か出来事を起こすことが大切な要素だと思います。

一方的でないこと

次に、「伝えること」と「教えること」の違いを考えてみましょう。少しグループでゲームをしてみます。先ほど書きました伝言ゲームです。2枚の紙を用意してください。それぞれに

いろいろな形を書いておきます。これで準備完了です。まず、リーダーが1枚の紙に書かれているものをみんなに伝えます。聞いた側は言われたとおり自分の紙に書きます。ここで重要なことは、リーダーは一方向的に話すだけで、質問など一切受け付けてはいけないということです。どのくらい伝わるでしょう。次に、リーダーは2枚目に書かれていることを伝えます。今度は、みんなからの質問ありです。大きさ、形、色など、どんなことでも質問できます。何度でも聞いていいことにします。どちらがより正確に伝えられるでしょうか。

このゲームのポイントは、「**一方向的に教えるも伝わらない。問いと答えがあれば正確に伝わる**」ということです。つまり、子どもたちに対しても同じで、一方向的に教えるも何も伝わらないのです。**伝えるとは教えることではなく、問いを起こさせて、それに対して答えを与えることなのです。**「どうして」「なぜ」を子どもの中に生み出すことなのです。イエス様も、講義のように一方向的に教えておられたわけではありません。生活の中の出来事を通して、「どうして」「なぜ」を民衆の心の中に起こさせたように思うのです。ある人たちは、話を聞いたあと、怒りに震えたようですし、ある人はイエス様の話に感動しています。どちらも、**聞いている方に何か出来事が起こっているのです。**これが一番大切なことだと言えます。

神学者P. ティリッヒ*
の言葉

「現在の教会（キリスト）教育の最も困難なことは、子どもが今までに問うたことのない問いに答えを与えねばならないことである」。

つまり、子どもが問いを持つ前に、答えを先

***パウル・ティリッヒ**

1886-1965ドイツとアメリカで活躍した20世紀の代表的な神学者の一人。

に「教えている」「与えている」ことが問題なのではないかと思うのです。子どもたちが問いを持って初めて、答えが答えとして成立すると言えます。例えば、ここに真っ赤な丸い美味しそうなものがあるとします。その時「これは何?」「食べられるものかな?」「名前は何?」という問いを持ったとき初めて、与えられる「りんご」という答えが答えとなる。まだそれに気がついていない、意識もしていないときに「これはりんごです」と先に言っても、「だから何?」と思ってしまうませんか?「イエス様は神様です」が先にあったら、「それで?」となります。イエス様ってどんな方?という問いを持つからこそ、十字架の意味も分かるのではないのでしょうか。

「問い」を持たせること。簡単なようでかなり難しいことです。教会学校の礼拝で、どのように「問い」を子どもたちに持たせるか。礼拝の中で、答えとしての福音が伝わるまでにどれほどのことが必要か。これだけを考えてみても、大変意義深いことだと言えます。

「発見・驚き・感動・楽しさ」を礼拝の中へ、そして子どもたちと共に

礼拝を楽しいと思ったことがありますか?礼拝のお話の中で、子どもたちと共に楽しんでいと私は思います。聖書のお話に間違いなどありません。お話する先生が「分からない」「難しい」と思っていたら、聞いている子どもたちも同じことを感じるはずです。もう一度あの天使の言葉を思い出してください。

「先生は、自分の話を自分で聞いて楽しいと思う?」

イエス様の言葉と共に驚き、感動することが大切です。**自分が楽しいと感じ、感動したこと**

を素直に伝えればいいのです。まずは、お話を
する先生方が、イエス様の言葉に感動してくだ
さい。癒されてください。涙を流してください。
そこから始めましょう。それをそのまま伝
えればいいのですから。分からないときは、
「先生は、何回もお言葉を読んだけど、分か
らないの」でいいのです。子どもたちは「先生
も分からないことがあるんだな」と思ってくれ
ますし、自分も分かりたいとも思うはずです。
神様が子どもたちに与えられた「聞く」という
賜物を信じましょう。

教会学校の礼拝の中で、信仰継承の活動の中
に、「問い」と「答え」を見つけていくことで、
より深く伝わると思います。

4. 小児洗礼と親、教保、教会の役割

洗礼って何？

聖書には「わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。」とあります。

ローマ6:4

***聖礼典（ sacrament）**
ルター派をはじめプロテスタントの教会にとっては、洗礼と聖餐の2つ。

洗礼は、それを受ける人が神の国の民として受け入れられ、教会の会員となるために神によって定められた、キリストが命じられた**聖礼典***（ sacrament）の一つです。**神が、その恵みの確かな保証として、またしるしとして、私たちに与えてくださった行為**です。私たちの信仰の表明というだけでなく、神の命令であり、約束なのです。洗礼は「恵みの手段」なのです。

この恵みは、自分の信仰が完全でないからといって受け取れないものではありません。私たちの信仰がなお不完全であったとしても、十分な知識も持っていないなくても、私たちが神の恵みを信頼し確かに神との関係の中で生きていこうとするなら、洗礼を受けることができます。完全な信仰がなくては洗礼が受けられないのではないのです。大切なことは、神と共に生きていこうと決心することです。**洗礼は神の恵みの保証であって、恵みを受けるための条件ではありません。**

ですから、洗礼に種類があるわけではありません。小児洗礼・壮年洗礼という言葉はありますが、そもそもどちらも同じ一つの「洗礼」なのです。子どもは不完全だから小児洗礼で、大人は完全だから壮年洗礼と考えておられる方は間違いです。すべての人が同じ一つの洗礼に招

****アウグスブルク信仰告白**

16世紀ドイツで宗教改革陣営の信仰上の立場を鮮明に宣言した文書

かれています。子どもたちが受ける洗礼も同じです。

アウグスブルク信仰告白によれば

アウグスブルク信仰告白**の第9条によれば、「子どもたちにも洗礼をほどこすべきである。彼らは洗礼によって、神にゆだねられ、神に受け入れられる」とあります。これはどんなことを意味しているのでしょうか。

小児洗礼って必要なの？

*子どもの受洗

フィリピの婦人リディアが入信した際、「彼女も家族の者も洗礼を受けた」(使徒16:15)との記述はあるが、明確に子どもとは記されていない。

子どもたちが洗礼を受けたという記録*は、聖書のどこにもありません。聖書に書かれている記事は、ほとんどが信仰の決断を伴った悔い改めの洗礼であり、今まで属していたユダヤ教などから離れて、新しくイエス・キリストの教えに従って生きるということの儀式でした。ですから、子どもたちを対象にしたものではなかったのかもしれませんが、しかし、だからといって子どもの洗礼を否定しているわけではありません。どこにも書いてないからありえないということではないのです。

実際、聖書の中で、イエス様は子どもたちを招いておられます。またマルコ福音書には、「イエスに触れていただくために、人々が子供たちを連れて来た。弟子たちはこの人々を叱った。しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。『子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきり言っておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。』

マルコ10:13-16

そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」とあります。これは、小児洗礼のときの式文で読まれる聖書箇所です。子どもたちは、

イエス様に受け入れられている存在なのです。

自分で信仰を告白した者だけではなく、信仰的な環境に育てられる子どもたちへの洗礼は大切な意味を持っています。ルターの「大教理問答書」には、次のように書かれています。「私たちは幼児が信じると考え、またそう希望して連れてきて、神がこれに信仰を与えたもうように祈願する。けれども、それに基づいて洗礼を施すのではない。**ただ神が命じたもうたことであるという事実にもみ基づいて、ほどこすのである**」。子どもたちは、洗礼によって神に委ねられ、受け入れられます。

ですから、**小児洗礼は必要**なのです。確かに、子どもは一個の独立した人格だから、たとえ親でも信仰を強制することはできないと言う方もおられます。もちろんです。信仰を強制するなどもってのほかです。しかし、私たちはどうですか。洗礼を受け、神に受け入れられ、恵みを頂いています。**このような祝福を子どもたちと分かち合いたいと思いませんか。**

現代に生きる子どもたちは、厳しい環境の中で生きています。どのように生きていけば良いか迷っているかもしれません。毎日起こる子どもたちの事件の中で、現代の子どもたちにとって、イエス様の御言葉が必要だと思いませんか。私たちがこんなにも祝福されているその基になっている信仰、そして洗礼を、せめて親として、教会員として伝えたい、継承したいと思いませんか。

もちろん、子どもを洗礼に導いた両親や教保、教会は、受洗した子どもが自らの信仰告白に至るまでの養育の責任を負います。それは苦しい責任ではなく、喜びの責任といえます。

親・教保そして教会の 役割

子どもが幼児のときから共に礼拝に出席することは喜びです。また、親の務めでもありません。子どもたちが成長するに従って、学校、塾、部活、友達などの関係で礼拝から遠ざかっていくケースもよくあります。「だって教会より楽しいもん」と言われた経験も少なからずあるでしょう。しかし、少しのチャンスであったとしても、子どもと共に礼拝に参加することは、信仰を持つ親としての務めです。

ルーテル教会の洗礼式の式文には、次の勧めがあります。「あなたは彼と神の家の礼拝をともにしつつ、教会の交わりを保ち、彼のために心をくばり、神のみ旨に従って彼を助け、イエス・キリストの日まで共に洗礼の恵みの約束のうちに生活なさい」。このような勧めに従って、その役割を考えてみたいものです。

親として・家族の中で

食事のときに子どもと共に祈ることを続ける、これだけでも親としての立派な務めです。また、**ミッション系の幼稚園・保育所に積極的に子どもをお願いすることもいいでしょう。入学・卒業のときには子どもと共に祈り、教会へ行って牧師から祝福を受ける**ことも、とても大切な経験になると言えます。また、子どもは成長するに従っていろいろな問題を抱えます。教会からしばらく離れてしまうことがあるかもしれません。そのようなときには、親としては祈ることしかできないかもしれませんが、その祈りの姿があれば十分なときもあります。

大切なことは、**無理をせず、子どもが神様を見失うことがないようにすること**です。そのためにも、親として、大切なあなたのために祈っていますということを伝えたいものです。

また、現在では、全国規模でたくさんのキャンプ、修養会などが計画されていますので、子どもに「ちょっと参加してみない」と声をかけるのも、親としてできることです。**教会の交わりに少しでもつながっている**ことが、あとあと子どもの信仰には役に立つものです。

クリスチャンホームの親として、最も気になることは「信仰の継承」です。神様への信仰が、親から子どもへと継承され、子どもたちの意志で、信仰告白に至るように導くことです。しかし、あまり思いつめないことです。きっと継承されていきます。だからと言って何もしいわけにはいきません。小さい頃から親と一緒に**礼拝を守る習慣を心がける**ことからです。家庭では**一緒に祈り、聖書を読む**ことも大切です。また、教保との関わりの中で、共に子どもの信仰について祈り、見守っていくことも必要です。

教保とは？

*教保

受洗するのが子どもなら、両親と共に式に立ち会うだけでなく、教会員を代表して、その子が成長して信仰告白に至るまで陰になり日なたになって支え導く役割。成人の場合もその人の信仰生活の先輩また同伴者として立てられることがある。

みなさんには教保*がおられますか？教保って何？という方もおられるかもしれません。実際、教保という言葉は聞いても何をしていいかわからないのが現実かもしれません。教保とは、洗礼を受けるときに与えられる大切な存在です。大人の洗礼の場合もそうですが、子どもの場合、あとあとまでその信仰を励ましてくれる存在です。親は、信仰のことで面と向かって子どもには言えないことや、言わねばならないけれど言えないことなどもあります。反抗期などは特にそうでしょう。そこで教保が活躍するのは、**信頼のおける信仰の導き手として教保の存在があるのです**。親に言えない悩みや苦しみを教保に相談することができる。同じ信仰を

持つ先輩として、アドバイスしたり忠告したりできる人がいることは、信仰生活にとってどんなに役立つことでしょうか。

教保の役割としては、礼拝式文の洗礼式に次のような言葉が出てきます。「また、この子どもが成長するに従って、その手に聖書を持たせ、主の祈り・使徒信条・十戒を教え、堅信にいたるまでキリストへの信仰を堅く育てなさい」と。

しかしそれらは、親と教保だけがするというわけではありません。教会の交わりの中でこそ、そのように育てられていくことを望んでいます。教会全体が大きな教保と言っても良いかもしれませんが。そのような心で、教会の子どもたちを育む姿勢こそが、これからの信仰継承にとって一番大切だと思います。そういった意味では、教会は大きな家族です。全体でサポートしていくことがこれから求められていくことでしょう。

ある教会に一人のおじいさんがおられました。たくさん家族に囲まれ、孫が生まれるたびに洗礼に立ち会い、教保としての役割を任せられました。ところが、教保として何をしたいやら、どうやって自分の信仰を伝えていけばいいのかと、ふと悩み始めました。そのときすでに、孫が8人もいたのです。

ある朝、「私が伝えられるのは、私が何を信じ、何によって生きているかを示すことだ」と思い、聖書を8冊買ってこられたのです。その日から聖書を読む日々が始まりました。「ここだ」と思うところには赤線を引きながら、1年で一冊を通読されたのです。そしてその聖書は、初めての孫の誕生日にプレゼントしまし

た。

2冊目も同じように赤線を引きながら、今度はそのときに感じたこと、恵みだと思ったことを聖書の隅に書き残して1年かけて通読し、こんどは2番目の孫にプレゼントしました。3冊目、4冊目、このころには孫が増えていました。そして12年かけて、12人の孫に聖書をプレゼントされたのです。

すばらしい信仰継承だと思います。聖書をプレゼントすることは簡単ですが、その手に聖書を持たせるのは大変なことです。しかし、このおじいさんがされたことは、神様に生かされていることを自分の身をもって教えるために、自分から聖書を手にされたということでしょう。聖書をただプレゼントするのではなく、伝えていくことの大切さを教えられた話でした。

また、ある教会では、小児洗礼が行われるときに、教会の礼拝に出席しているすべての子どもたちも一緒に聖壇に上げ、洗礼を見守らせると聞きました。それは、すでに小児洗礼を受けている子どもたちには、「みんなの洗礼もこれと同じだったよ」ということを知らせるため、また、まだ洗礼を受けてない子どもたちには、「洗礼って何？」という問いを持たせるためということでした。素晴らしいことだと思います。自分の洗礼について考えること。問いを持つこと。そこから、教保、親、教会の役目が始まるのです。

〈話し合いのために〉

- ①あなたは誰かの教保ですか？
- ②教保として何をしていますか？
- ③教保の喜びとは何ですか？・・・みんなで分かち合ってみましょう！

5. TNG(The Next Generation)委員会の働き

TNGが目指すもの

私たちの教会は、パワーミッション21 (PM21) という宣教方策を受け入れ、新しい教会の宣教を求めて歩んでいます。特に、次世代への宣教に向けての取り組みを開始しました。この方策は、最優先の課題の一つとして進められています。

もちろん次世代への宣教は、各教区・地区の働きを基本としています。また一番大切な働きは各個教会のプログラムだと考えています。しかしながら、各個教会・地区・教区ではできないこともあります。それを全体で協力しながら進めていこうと計画されてきました。いつもは少人数で活動していても、全国では仲間がたくさんいることを知ってほしいし、また、そのようなつながりをとおして信仰成長ができたらと願っているのです。

各個教会での働きを活発にさせていただきながら、全国で行われるプログラムへ送り出していただくことも願っています。様々なプログラムやグッズが次世代の子どもたちを待っています。

まずはP.30の図をご覧ください。

ルーテル教会の次世代宣教の新しい時代への第一歩は、宣教百年記念大会（1993年8月）でした。それまで各教区・地区で行われていた青年・中高生への働きかけを、宣教百年記念大会を機に、全国レベルで集まることにしました。全国には、こんなに多くの青年、中高生がいる。しかし、教区・地区・各個教会に戻れば数人になってしまう。この大会の喜び、感激、仲間をもっと大きなものにした。数名の牧師と



中高生が呼びかけ人となって、翌年、京都にて「第2回全国中高生春のキャンプ」(現在の「Teens 春キャン」)が行われたのです。回を重ねるごとに内容は充実し、参加者も増えていきました。このような中から次世代の育成と宣教を考えた TNG 委員会は発足したのです。

TNG 委員会の目標

TNG（次世代育成・宣教）の目標は4つあります。1「つながり」、2「宣教（洗礼・堅信）」、3「ユースリーダー育成・献身者育成」、4「支援体制の確保」です。幼児から小学生・学生・青年・青年以降の世代、そしてスポンサーとして熟年世代までの一貫した「つながり」、「サイクル」を重視しています。

ここでは、信仰の継承だけでなく、次世代への伝道を目指しており、一人でも多くの次世代信徒を生み出すことにも重点を置いてきました。この方針に従って各部門が活動を行い、ここ数年、目標が達せられ、**毎年、Teens*世代の洗礼・堅信が報告され、その数は年々増えてきています。**このような活動を通して、高校生が子どもキャンプのカウンセラーやジュニアリーダーとして活躍するようになりました。またそれと同時に、各キャンプに関わる青年層スタッフから神学校への献身者も増えてきました。これからは、ユースリーダーを育てていくことも夢ではなくなってきました。

「春の全国 Teens キャンプ」卒業生から牧師が生まれたことは大いなる喜びでありました。

また、「道草くらぶ」という TNG サポーター活動も開始し、壮年・婦人層、熟年層へのつながりもできました。教会の内外を問わず、すべての年代で次世代育成・宣教にかかわっていただくためのものです。そういった意味では、お金だけのスポンサーではなく、次世代との接点を模索しつつ、このような活動に参加していただきたいと思います。

2004年より TNG 幼児部門が動き出し、一通りの流れが確保できたことは大きな喜びです。この流れを強化しつつ、各個教会内にも同じよ

*Teens

十代の人々のこと。以前は「中高生」と読んでいたが、必ずしも中学や高校に通わない若者たちもいるので、総称的に「ティーンズ」と呼んでいる

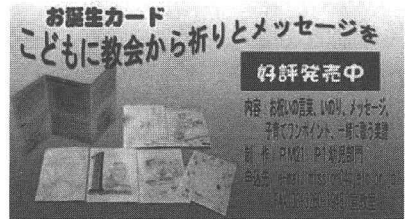
うな流れを作ることが、今後の目標となります。

TNGの具体的活動

A) 幼保部門

「誕生日カード」0歳～6歳までを作成。

家庭での親と子の関係や、その発達に合わせた歌や祈りのカード



を、すてきなイラストつきで作成しました。これはフィンランドの教会で用いられているものを、日本の社会にあうように工夫したものです。

「子育てサークル」

各教会で行っている、子育てサークル・キッズクラブなどと連携・協力をして、幼稚園に入るまでの親子を対象にしながら、様々な活動を展開したいと考えています。今後、ルーテル幼稚園保育園連盟と協力しながら活動をしていくことが一つの課題です。

B) こども部門

*CS

Church School 教会学校。以前は日曜学校と呼ばれていた。

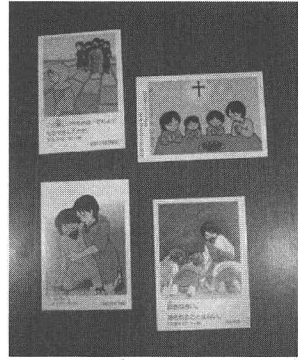
年2回の「CS*準備ノート」「みことばカード」発行、「クリスマス福in袋」発行、教会学校新聞「C・ポスト」発行と、主に教材部門の発行に着手しています。2004年からは「ルーテル国際少年少女キャンプ」を婦人会連盟より受け継ぎ、新しく開始しました。

この部門では、先に日本キリスト教協議会(NCC)教育部報告に、当時担当であった牧師から以下のような報告がなされています。

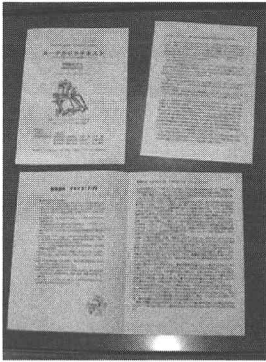
子ども部門が取り組んでいることをご紹介します

ます。

「CSカード」…ルーテル教会の主日礼拝の福音書の日課に合わせた聖句カードです。今後はカードを使った学び方や遊び方などのアイデアも提供していきたいと思えます。



「CS準備ノート」…CSに携わる方たちの聖書の学びに役立つようにと、毎週の福音書の日課のポイントを分かりやすく解説し、CSの先生たちが児童説教で何を語ったらよいか分かるようにしてあります。また毎週、児童説教の見本が載っています。



「クリスマス福 in 袋」…CS部門が最も力を入れているグッズで、昨年も全国のCSや幼稚園からたくさんご注文をいただきました。クリスマスは日本でも広く人々に親しまれているキリスト教の行事です。この絶好の機会に、地域の



子どもたちに伝道する教会のお手伝いができたら、という願いから生まれました。

【C・ポスト】…グッズ作りの課題のひとつとして、時代とともに変化していく子どもたちの嗜好にあわせて、子どもが手にとって「これステキ!」「かわいい」と喜んでもらえるものを作り出すということも大切なポイントです。CSの先生方をバックアップすると同時に、子どもたちにいかに親しまれるものを作り出すか、とスタッフ一同、試行錯誤の日々です。しかし、スタッフといえども、みんな素人。毎回、手探りでアイデアをひねり出していますが、やはり少数のアイデアには限りがあります。そこで、CS部門では、全国の教会学校に携わる方々を対象として、情報とコミュニケーションのために昨年夏、『C・ポスト』（CはチャイルドのC）を創刊。

今後、全国の教会学校・子ども礼拝などの実践の様子や、四季の行事のアイデア、各地区のCS協議会での取り組み、課題などを、イラスト・写真を織り交ぜて紙上で紹介しつつ、皆様の声が行き交うコミュニケーションの場となるようなものを作っていくことができればと考えております。CSに関する取り組み、悩み、アイデア等がございましたら、どのようなことでもお寄せください。

教会の子どもたちを取り巻く環境は厳しいものがあり、また少子化が叫ばれて久しく、生徒数・教師数の減少など教会学校の継続にも難しさを覚える時代ですが、みんなで知恵を出し合い、協力しあって次世代の子どもたちに福音を

届けることができればと願っております。皆様のご参加・お祈りをよろしくお願い申し上げます。

(NCC 教育部報告より抜粋)

「ルーテル国際少年少女キャンプ」

婦人会連盟の青少年育成プロジェクトとして始まったキャンプが、2004年より TNG 委員会 こども部門に受け継がれました。ルーテル社団、世界宣教委員会と協力し、毎年テーマ国を設定しています。これまで、韓国、フィンランド、ドイツ、マレーシア、アメリカからゲストを招き、その国とキリスト教の役割、信仰に触れてきました。小学校5、6年を対象としたキャンプで、6年生の合言葉は「次は Teens キャンプで会おう」です。



C) Teens 部門

「Teens Times」発行

春の全国 Teens キャンプ毎年春休みに行われる Teens キャンプは、この部門のなかでも重要な位置をしめています。毎年100名を超える参加者があり、その年ごとのテーマにそったキャンプです。

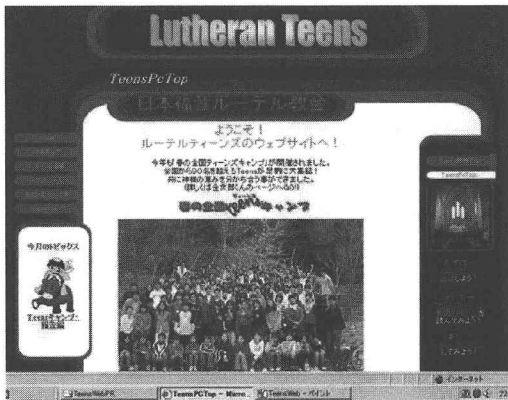


Teens Web サイト

<http://www.jelc.net/~teens/>

現在、Teens 向けにウェブページを開設しています。パソコンからアクセスするもよし、携帯からもつなげることができます。Teens のページですから、お互いの情報交換やキャンプのお知らせなどに有効に使用されています。

ぜひ、教会に集う Teens へこのアドレスを伝えましょう。



01/05 19:25 久々へよ
 01/03 17:11 21歳だ!!
 01/03 16:18 ふふふふふふ!!!
 01/02 23:43 おげおげ!!
 12/24 00:54 21歳ですおめ
 12/22 22:00 21歳の女
 12/10 01:18 12月TeensCl
 12/07 22:29 21歳です
 12/05 15:01 21歳です
 11/30 23:04 21歳!!
 11/30 23:02 21歳です
 11/30 16:00 誕生日の祝福
 11/28 21:34 誕生日前か...
 11/24 22:12 21歳の女、21歳
 11/23 16:41 誕生日おめでとう
 11/21 12:35 21歳の女です
 11/18 16:08 21歳です
 11/18 15:35 21歳です
 11/17 16:12 誕生日おめでとう
 11/16 22:00 誕生日おめでとう
 11/15 00:11 誕生日おめでとう
 11/14 04:32 21歳
 11/10 22:58 21歳です
 11/10 21:53 21歳です
 11/10 21:44 誕生日おめでとう
 11/10 21:41 21歳です
 11/10 19:49 誕生日おめでとう
 10/13 13:34 21歳です
 全9頁

TNG Teens のページへようこそ！

私達スタッフは、いつもみんなのために祈っています。みんなの力に少しでもなれたらなあと願っています。少しでもみんなの近くにいたくて、みんなのこと知りたくて、このページを作りました。

このウェブページは、ティーンズであるみんながお互いのニュースを共有したり、神さまのことを考えたり、聖書のことを知ったり、スタッフとの交流をしたり、みんなのためのページ、みんなの居場所になってほしいなと思います。どうぞ、みんなで活用してね！ もちろん、みんなのページだから、みんなの声も聞かせてください。こんなこと、あんなこと、思いついたらすぐアクセスしてね。

(ウェブページより)

*メルマガ

メールマガジンの略。

メルマガ*

毎週水曜日にメールマガジンを送信しています。これは登録制になっており、現在80名を超える Teens が登録しています。これを100名にするのが現在の目標です。このメールマガジンを通して、毎週福音のメッセージを届けることができます。わかりやすい言葉で、語りかけられるメッセージはきっと Teens の心に平安を与えるものであると期待しています。

ウェブページから登録できます。どなたでも登録することができます。あなたも、あなたの教会の Teens もぜひ登録してください。次のようなメッセージが届きます。

忙しい！ ゆとりがほしい！！ホントに忙しいよね。

ある人が「あまりにも忙しいから二時間かけて、神様に祈らなければなりません」と言いました。普通は忙しくなると祈る時間が減ってしまいます。しかしそれはこの世の考え方です。本当の知恵はその

反対です。

イエスさまは忙しい時に、時間をつかって山で祈られました。私たちは祈りを通して、「何が重要か、何がただの忙しさか」を、神さまに教えていただきます。「神さま、どうぞお先に」とチョット思ってみよう！神さまは私たちのために時間を作り、心に余裕と平安を作ってくださいます。

「何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」（フィリピの信徒への手紙4:6-7）

「人は絶望に慣れる」と言います。でもそんなことはなくて、日々、様々な出来事が起こり、新しい悲しみや悩みをもたらします。望まなかったり、受け取りたくなかった出来事によってさらに絶望へと追い込まれると思います。

クリスマスは、神さまが私たちの「闇」に宿られたことを憶える時です。それは私たちの絶望の闇に、神さまが生まれてくださったということです。私たちは暗い闇の中を手ぶらで歩いているのではありません。どんな大風にも、どんな大雨でも、決して消されることのない、明るく輝くともし火を持ちながら歩いているのです。

「闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。『光あれ。』すると、光があった。」創世記1:2-3 メリー・クリスマス！

（メルマガより）

グループワークキャンプ（アメリカ）

日本福音ルーテル社団（JELA）との協力によって、毎年夏にアメリカのグループワークキャンプへ Teens を送り出しています。

ワークだけでなく、信仰の成長も大変有意義なキャンプとなっています。

キャンプ初日、私はクルーと馴染めずに泣いてしまいました。その日のデボーションの話に「神様が私たちをここに導いて下さった」という言葉がありました。その時、私はうれしくなりました。この言葉を通して神様の恵みを感じる事が出来たからです。私はキャンプ前半までクルーと馴れずに不安に思うことが何度もありましたが、この言葉がつねに私を支えてくれました。

夜のプログラムが終わった後、その場から動けずに泣いていると、一緒に日本から来た友達が駆け寄ってきてくれて、心配してくれて本当に嬉しかった。しばらくすると、同じクルーの人が来て、私が泣いている理由を聞いて私にこう言ってくれました。「英語がわからなかったら何でも聞いて。簡単な英語で話すから。私はいつもそばにいます。いつでもあなたの味方です」と。そして、そばに来て私を抱きしめてくれました。もう一人のクルーも私を抱きしめ同じことを言うてくれました。嬉しくて涙が止まりませんでした。その時、私は一人ではないのだ、と思いました。

神様は私たちにもっと強くなって欲しいから、成長して欲しいから、こういう試練を与えるんだと思う。その試練にあうと、私たちは途方に暮れてしまうけど、そうすると神様は道を照らしてくれて私たちはなんとか前に進んでゴールに辿り付く事が出来る。その道のりは長くても、必ずゴールはあるし、その道のりの間に私たちは少なからず成長することができる。

(参加者感想文)

D) Youth*部門

*Youth

ユース、青年のこと。高校、大学生から若い社会人まで幅広くとらえる。

Youthの自主的な活動(全国青年連絡会議→JelcyNet)へのサポート

毎年夏に行われている修養会のサポートを中心に活動を展開しています。Youthが自主的に活動できるように、委員会では各地区の青年担当牧師と連絡を取り合いながら活動を支えて

います。

全国青年修養会は、「第7回全国青年修養会」を山梨県愛宕山少年自然の家で、テーマ「Are you hungry?～みことばを食べよ!!～」のもとに行い、69名の参加者がありました。「第8回全国青年大集合」は、岐阜県乗鞍青年の家で、テーマ「出会い～ザアカイ、急いでおりてきなさい～」のもとに行い、76名の参加者が与えられました。今後もこのような活動を通して、より大きな群れとなっていくことを期待しています。

Youthの信仰リーダー育成

現在 Youth に求められているものに、リーダーとしての成長があります。こどもキャンプ、Teens キャンプは、各教区、全国のどちらもスタッフ・リーダーとしての Youth が必要とされています。これまでは、リーダー養成を行えませんでした、その必要性を考え、現在以下のような育成プログラムがあります。

「青年リーダー研修会」

「ユーストレーニング」

「カンボジアキャンプ」

情報共有と青年向けメッセージの発信のためのウェブサイトの開設。

<<http://www.jelc.or.jp/youth/>>

エキュメニカル学生青年活動への関わり (NCC 青年委員会)

ルーテル教会の中だけでなく、他教派との連携も考えて、以下の会議には代表を送っています。

「エキュメニカル学生青年協議会」

「東北アジア平和協議会」

「NCC 青年・非暴力トレーニング」

今後、この Youth 部門は、大学・神学校などの教育機関との連携を通して、青年への宣教に取り組むことを目標としています。

〈話し合いのために〉

①あなたの教会で、TNG プログラム・キャンプ・集会に参加した人はいますか？

②感想や体験談を聞いたことがありますか？

もしいたら、LAOS 講座に参加者を招き、話を聞いてみましょう。

E) 青年会 EX*部門

*青年会EX

青年会を卒業したと思われるが、性別、世代別グループ分け、壮年会、婦人会に入るのをいきぎよしとせず、ワンランク上の青年という自己認識をもって活動する人々。

現在、教会内に埋もれている若夫婦世代を調査した結果、40組を超える若夫婦層に加え、青年を卒業したメンバーが約90名～100名いることが分かりました。今までは、この年代を迎える会としては、壮年会・婦人(女性)会しかありませんでした。そこで、青年を卒業し壮年会婦人(女性)会に入るまでの年代を、一つの集まりとしていこうと考えています。なんとかして、次の会へ至れるような道を模索しています。2004年8月に担当者が呼びかけを行い、2005年9月にファミリーキャンプ的な集まりを持つことが決定しています。

F) 道草くらぶ (TNG サポーター)

2003年2月「塩狩峠の旅」、9月「天草キリシタンの旅」を行い、参加費の中から Teens キャンプへ支援金を渡すことができました。それまで Teens 向けや青年会向けなど、TNG 各部門で行われてきた内容を、壮年・婦人向けにアレンジして、信仰の学びと Teens 支援を同時に行えるように企画されたのがこの会です。今後、TNG サポーターとして定着し、広



がっていけばと願っています。

G) これからの TNG 委員会

教材開発とその利用

TNG 各部門で、それぞれの教材開発がなされています。これも「つながり」ということを課題とし、「るうてる」などの執筆も利用しながら、よりよい教材を開発していきたいと思っています。特に、福音版に連載された子育てに関する内容を教材化する予定があります。Teens キャンプにおいて、「りえこ先生の保健室から」を小冊子にし、参加者全員に配布しました。今後「あいちゃん先生」「はじめくん」「さくらとゆうみ」などを Teens 向けに教材化できればと思っています。

その他、CS 準備ノート、C・ポスト、誕生から教会学校までの各年齢へのお招きカード、シール、カード、Teens 手帳など。幅広いものを作成していきたいと考えています。これを各教区・教会にてぜひ用いていただきたいと思っています。

全国堅信キャンプの模索

幼児洗礼を受けた Teens が、堅信礼へと導

かれるようなプログラムを、全国規模でできないかと考えています。

例えば、高校1年になったら5日～1週間に亘って、堅信キャンプ・教育を受け、終了とともに各自が母教会にて堅信礼を受けるようなシステムを考えられないかということです。これまでも各教区・各教会にて行われてきましたが、それが現在生かされているかどうかの調査も含めて検討していきたいと思っています。

TNG 各部門へのスタッフ育成

委員会が固定されたメンバーになるよりも、全国の教会への広がりを考えた委員会にしていきたいと思います。各個教会に TNG 委員会ができることが最終目標です。現在では、各個教会ではできない活動やプログラムを、全国レベルで行っています。しかし本来、次世代育成・宣教は、各個教会の中でなされていくものであると考えています。これには各教区・各個教会の協力を必要としています。ぜひ各教区で次世代宣教に興味がある牧師・信徒を推薦していただき、ともにこの活動を支えていきたいと思ひます。

【A】ある教会の堅信教育プログラムの実例から

(1) 「堅信教育モデル」(クリスチャン・ライフ・カレンダー)

信徒教育を進めるためには、「洗礼」から始まる「信徒の生涯像」について、会衆全体の共通理解を確立する必要があります。

a 子どもが受ける洗礼は、「不十分な洗礼」であるという理解を改める。また、「洗礼」には、“成人洗礼”と“幼児洗礼”の2種類が存在するという理解を改める。むしろ、「子どもが受ける洗礼」こそ、「洗礼」の“純粋型”であり、一種類の「洗礼」しか存在しない、という本来の理解を確立する。

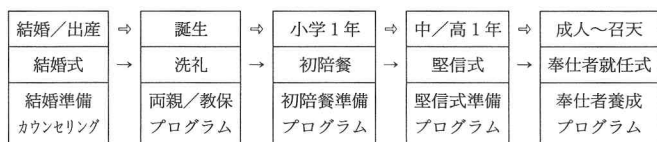
b 礼典である「洗礼」・礼典ではない「堅信」・礼典である「初陪餐」は、それぞれ独立したものであるという理解を確立する。

キリスト教会の古い伝統においては、「洗礼」・「堅信」・「初陪餐」の三つは、それぞれ別の時点で行われていた。いわゆる“成人洗礼”の時、この三つを同時に行うようになったために、それが、「十分な洗礼」と考えられるようになったのかも知れない。また「洗礼」を成立させる条件の一つとしての「信仰」は、知的な理解を伴うべきものとする意識的、無意識的な考え方によって、幼児洗礼・小児陪餐への消極的態度が支配していた。

c 「洗礼」を受ける人が子どもであるか大人であるかを問わず、「洗礼」の次に「初陪餐」と「堅信」が続くという共通理解を確立する。子どもが洗礼を受ける場合には、その三つの出来事が数年の時間をおいて行われるが、原則として中学生以上の人が洗礼を受ける場合には、その三つは一日のうちに起こるのが一般的である。

d 「堅信」と「堅信式」とを区別して考えるという理解を確立する。広い意味での「堅信」は、主日礼拝(み言葉と聖餐)・ほかの人の洗礼や陪餐、ほかの人の堅信式・自分の堅信式・進学・成人式・就職・結婚・出産・病気・自分とほかの人の奉仕者就任式・自分と関係者のターミナル、関係者の葬式・記念会などを「機会」として、聖霊によって与えられる。そうした「機会」を意識するよう援助するために、「クリスチャン・ライフ・カレンダー」という考え方が生まれる。それを、さらに「堅信」という観点から考えれば、次のような「堅信教育モデル」に

なる。



e このような「モデル」を機会あるごとに、会衆全体が意識できるようにする。

「初陪餐」を何歳に設定するか、という問題は、1980年代、日本福音ルーテル教会の全国総会において、これを「教会規則」に盛り込む段階で、“0歳説”と“学齢説”の間で、議論が行われたが、結局は決着がつかず、妥協がはかられた結果、「学齢時まで」という表現に納まった。

しかし、この両説には、論点の相違があり、この妥協には問題が残されたのではないかと考えられる。

ある教会では、「学齢時」という考え方が採用され、すでに「伝統」になっている。ここには、一つの“割り切り”があると思う。すなわち、同じく「礼典」ではあっても、「洗礼」は唯一回のものであるの対して、「聖餐」は、洗礼における恵みの約束の再確認が繰り返される出来事であるという理解に立つということである。そこから、再確認の“時機”を、「堅信教育」との関連において設定するという判断が成り立つのである。

f ここで、忘れてはならない視点は、「礼典」をはじめとするキリスト者の生活が、「聖徒の交わり」（信徒の集団・共同体）としての「教会」の出来事として理解される、ということである。「御言葉」と「礼典」からなる「共同礼拝」は、「礼拝共同体」／「宣教共同体」である「教会」の行為であり、「教会」の出来事である。ペンテコステの日起こったことも、そのような出来事であった。「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、・・・炎のような舌が分かれ分かれに現われ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した」と書かれているとおりである。

子どもの洗礼は、信徒の「家族」が、「神の家族」に組み入れられる出来事であり、「キリストのからだ」に与ることである。個性性と集団性とは、区別されながらも、「キリストのからだ」といわれる「教会」の有機的なつながりの中に、「個人と家族」が位置づけられるのである。

(2) 「堅信教育プログラム」

「堅信教育プログラム」は、次のような五つの柱を持っています。

a 共同礼拝／教会学校に参加すること。

- ・第一礼拝 幼稚園礼拝と並行して行われ、教会学校小学科の生徒や幼稚園／教会学校の保護者を含む成人も参加する。
- ・第二礼拝 中高生会のメンバーを中心に一般の成人も参加する。
- ・第三礼拝 幼児から老人まで多様な参加者がある。
必要に応じて「子どものための説教」などを行う。
- ・子どもの洗礼や初陪餐を、子どもたちの体験の場とする。
- ・ほかの信徒の「教会奉仕者就任式」などに参加する。

b 初陪餐準備クラスに（会堂または自宅で）保護者と共に参加すること。

c 堅信式準備クラスに（会堂または自宅で）参加すること。

d 家庭礼拝を大切にし、保護者と共に毎日祈る時を作ること。

e 「親と教保の会」を組織し、「教会の子ども」として見守ること。

この会は、教会の重点活動の一つとして位置付け、代議員を長とするスタッフ4人を役員会が委嘱して、活動の充実を期している。このように特別に取り組まなくてはならないということ自体、教会の現在の牧会の弱点を示すものであるが、すべては現実からスタートするほかないと承知している。

「教保」（代父母）の存在は、子どもたちの幼児期はもちろん、思春期においても、有力な支えとなっている。保護者と教保が祈りを共にし、具体的な協力の仕方を学ぶことは、言うまでもないことではあるが、きわめて重要である。“教会の家族”の存在は、大きな意味を持っている。

(3) 「堅信教育カリキュラム」

上記の「初陪餐準備クラス」と「堅信式準備クラス」において用いる基礎的なカリキュラムを作成し、活動的な信徒群の共通理解となるように解説し、全信徒に配布しました。これは、ルターの『小教理問答』に基づき、中高生以上の求道者／信徒のための「教理問答の現代的展開」として提示したアウトラインを、「堅信式準備カリキュラム」と「初陪餐準備カリキュラム」として簡素化したものです。もとより、この「カリキュラム」は不完全なものですが、とにかく、手がかりになるものを、“信徒の群れ”が共有することを目的としています。

堅信教育プログラム

堅信教育プログラムの主要部分

- 1) 公同礼拝における初陪餐式・堅信式
- 2) 会堂または訪問による準備プログラム
- 3) 日常の公同礼拝、教会学校、家庭礼拝

	堅信教育プログラム	初陪餐準備プログラム
テキスト	ルター著「小教理問答書」 福音ルーテル教会日本伝道部改訂増補 スヴェルドラップ原著「神の救いの道」	日本福音ルーテル教会東教区教育部 「はじめてのせいさんー神の恵みの食卓ー」 (小児初陪餐の手引き) 子ども用 指導者用 (両親用)
はじめに	あなたの「洗礼」・「初陪餐」 「聖書」「賛美歌」「礼拝式文」 聖書のアウトライン 3×9=27 (旧約)(新約) 聖書のナビゲーターとしての教理問答	あなたの洗礼 「洗礼」を受けて、わたしは 「神さまの子ども」になった。 「せいしょ」は「神さまのことば」
十の戒め	1) 神への愛と隣人への愛 (神に愛されている自分への愛) 2) 十戒の要点一かなめは「第1の戒め」 3) 十戒の第1面<第1~3+9,10> (神信頼、神のみ名、神の日、偶像) 4) 十戒の第2面<第4~10> (人格、生命、家庭、財産、名誉) 5) 行いと怠りー禁止と命令 (具体的に考えてみると…) 6) 律法と福音ー診断と治療 (罪の自覚から罪の赦しへ)	神様はわたしを愛しておられる。 だから わたしも神さまを愛している。
	1) 神の恵みによる罪の赦しの福音 (キリストを信じる信仰を通して)	神さまはわたしの「天のお父さま」

使徒信条	<p>2) 地上のイエスの神信頼と服従</p> <p>3) 十字架につけられたキリスト (誕生、受難、十字架、死、葬り)</p> <p>4) 復活させられたキリスト=神の御子 (陰府、復活、昇天、在天、再臨)</p> <p>5) キリストの謙虚と高揚 (キリストは、「神一人」)</p> <p>6) 創造の神—私を造られた父なる神の愛 (旧約聖書の序文—創造と救済)</p> <p>7) 自然と歴史 (聖書の読み方) 「見えないもの」を見る —合理主義を超えて 「HOW」と「WHY」 —自然科学と聖書 「世界像の表現と意味」 —聞き分ける努力を 「現実」から考える —倫理主義を超えて 「聖書は全体として読む」 —霊感ということ 「問いつつ、問われつつ」 —私へのラブレター 「知るよりも、知られている」 —「知」から「信」へ</p> <p>8) 聖霊である神が働いてくださる</p> <p>9) 義認と聖化—義人であって同時に罪人</p> <p>10) 「復活による永遠の命」</p> <p>11) 教会共同体・「聖徒の交わり」の中で (教会は「キリストのからだ」)</p> <p>12) 三位一体の神—公同の教会の信仰告白 (「見えない教会」「見える教会」) 付：異端的な教えについて</p>	<p>神さまのみ子はイエスさま わたしたちは神さまの家族</p> <p>イエスさまはわたしのために 十字架の上で苦しみ、死んで いのちをささげてくださった。</p> <p>そのイエスさまのいのちを わたしにあたえてくださった</p> <p>イエスさまはわたしのために 生き返って、 今も目には見えないけれど わたしとともにおられる</p> <p>神さまは わたしをつくってくださいました。</p> <p>お父さんもお母さんも おともだちもつくってくださいました。</p> <p>神さまは、 わたしが良い子でないときも ゆるしてく下さる だから わたしは神さまが喜ばれるようにしたい。</p> <p>教会の「家族」があることは とてもすばらしい。</p>
主の祈り	<p>1) まず神のことを—コペルニクスの転回 (呼び掛け、御名、御国、御心)</p> <p>2) 次に私たちのことを—「共同の祈り」 (糧、赦し、試み、悪からの救い)</p> <p>3) 宣教と奉仕に遣わされる—教会と私 (教会の使命と組織)</p> <p>4) 「ディアコニア」の精神—「仕える」 (その人のために「隣人となる」)</p> <p>5) 具体的な奉仕のチャンス</p>	<p>イエスさまが教えてくださった お祈りを、わたしも覚えよう</p>
	<p>1) みことばと礼典は礼拝の2つの中心 (「恵みの手段」を用いましょう)</p> <p>2) 三位一体の神の権威による洗礼</p>	<p>わたしは洗礼をうけているから 神さまに愛されている子ども 洗礼を受けたとき</p>

洗礼の礼典	<p>3) 洗礼によって神が与えられる救い 4) 洗礼は「みことば」による新生 5) 日々古い人が死に、新しい人が生きる 6) 礼典（サクラメント）の意味 7) 「神の家族」の中に生まれること</p>	<p>わたしは、いつまでも死なないいのちをいただいた。 わたしは神さまの家族のなかに生まれました。…それが洗礼。 <洗礼盤の説明></p>
聖餐の礼典	<p>1) 洗礼の契約の再確認としての聖餐 2) 最後の晩餐を記念する（キリストによる「新しい契約」） 3) 最初の聖餐から今日の聖餐へ（復活の主と共に守る感謝の祝祭） 4) 「キリストの体」としての「教会」（神と隣人との和解の交わり） 5) 終末の「メシア的食卓」の先取り（聖餐の「設定」と「主の祈り」） 6) キリストの臨在所聖餐の本質（ルターの聖餐理解について） 7) 感謝から宣教と奉仕へー犠牲の意味（陪餐は、世界への「証し」）</p>	<p>6歳になるわたしは はじめてせいさんを受けるイエスさまが、わたしのために十字架の上で血をながしてくださったから イエスさまが、わたしのために三日目に生き返って、いつまでも死なないいのちをわたしにもくださったから。 イエスさまは、毎日いつもわたしといっしょにおられる <陪餐の実際説明></p>
奉獻	<p>1) 個人の祈りと共同体の祈り 2) 「奉獻」の意味ー献金は献身のしるし（スチュワードシップと教会会計） 3) 「ルーテル連帯献金」のこと</p>	<p>お祈りは、神さまとお話すること 献金はじぶんをささげる</p>
信仰と愛	<p>1) 信仰は愛によって働くー自由と服従（キリスト教倫理ー修徳と社会倫理） 2) 新約聖書の教える倫理 a 教会の職務に就いている人のつとめ b 信徒の牧師に対するつとめ c この世の権威について d 権威のもとにある国民のつとめ e 夫に対して、妻に対して f 両親に対して、子に対して g 労働者に対して、雇い主に対して h 青年、寡婦、一般の人々に対して 3) 「苦難」の意味（旧約の人々の問いは永遠の問い、「因果応報説」の克服 究極の答え十字架の上に） 4) ほかの宗教の教えや行事について</p>	<p>神さまにおまかせすることが信仰 神さまが愛している世界中の人を大事にすること ぼくしせんせいのこと きょうかいのひとたちのこと お父さんお母さんのこと お祖父さんお祖母さんのこと おとしよりのこと おともだちのこと 悲しいときにも イエスさまはいつもわたしといっしょにおられる</p>
	<p>「おわり」「はじめ」ー聖書は一生！ 学びのチャンスを生かそう！</p>	<p>中学生になったら 堅信式の準備をする</p>

この「堅信教育プログラム」は日本福音ルーテル大岡山教会で作成され、実践されているものです。

㊦サムエル・ナイト

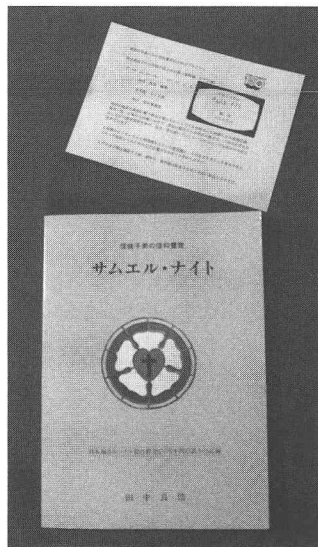
ここ10年ほどの間に全国あちこちの教会で、教会に一時泊る子どもたちの信仰教育プログラムとして有名になったのが、この「サムエル・ナイト」です。

これは、10年以上の準備を経て、1985年に稔台教会（東教区・千葉県松戸市）で始められた「信徒子弟の信仰養育」プログラムです。その6年間の実践記録が、宣教百年記念事業室から出版され、全国に広がりました。その目的はこうです。

- (1)キリスト教信仰を共有する子どもたちの交わりと生活のなかで、聖書・教会・そして信仰について、知的にまた、体験的に学びます。
- (2)日常生活において、クリスチャンとして生きる生活習慣、また倫理的、道徳的なことを、相互に学びます。
- (3)このような子どもたちの信仰の交わりは、楽しい生活共同体であることを体験的に学び、同時に、生きている時代や社会に対して、果たすべき責任をもっている信仰共同体であることを学びます。こうして、目を世界に開きます。
- (4)こうして、子どもたちの信仰の養育をはかり、小児陪餐の準備、堅信への準備、洗礼への導きとなるようにいたします。
- (5)「福音を世に伝え、世に仕える神の民」として、子どもたちを献身の信仰へと導くようにいたします。

こうして、教会員の子どもたちおよび両親の希望する者（小学生および中学生、高校生）と大人たちで毎月1回、土曜日午後から教会に集まり、生活を共にしながら信仰をしっかりと学ぶユニークな活動が続けられ、多くの青少年が育ちました。

そのカリキュラムとプログラムを含めた6年間の実践記録「サムエル・ナイト」（B5版220頁）とビデオ（35分）は宣教室で入手できます。ぜひ参考にして、子どもたちへの信仰の継承に励みましょう。



おわりに

ある教会の修養会のときでした。テーマは「信仰継承」。いろいろな世代の方々が、その考えや意見を述べていました。そして、最後に一人の青年が証しをしました。2代目クリスチャンである彼の証しは、次のようなものでした。

「私は、自分の親から信仰を受け継いだ、継承されたという実感はありません。しかし、同じ信仰を共有していると思います。私たち親子がたった一人の同じ神様を信じているということ、私は感謝しています。信仰を継承するという事は、信仰を共有することではじめて生かされると思うのです。」

信仰の継承とは、何かを教えることではなく、同じ信仰を共有することだと思えます。受け継ぐと考えるよりも、自分たちの親、祖父母、いや、そのずっとずっと前の方々と同じ信仰を持ち、今生きている私たちの中でそれが生かされているということです。

また、アメリカでの研修で、次のような言葉を聞きました。「今、教会にいる若者は、未来の教会なのではなく、今の教会なのです。」

私たちは、未来の教会のために次世代を育成しているわけではありません。今の教会だからこそ、この働きを支えていきたいと思っています。すでに TNG 委員会の活動を通して多くの実を与えられています。この全体教会の働きの中に各教会の子どもたちを送り出してください。あなただけでも、教会は、もっと豊かに成長していくことができます。あなたの教会が「信仰継承なんてとても手がまわらない」と思っておられるのであれば、ぜひお声をかけてください。TNG 委員会をはじめ、全国にあるネットワークを通してお手伝いいたします。

あなたの教会もこの動きに参加してください。また、あなたの教会でのプログラムを教えてください。信仰継承のために、お互いに手を取り合って「いなご豆の木」を植えようではありませんか！その木には、神様が必ず実をつけてくださるのです。LAOS 講座を学んだあなたと、あなたの教会はすでに信仰継承の苗木を持っています。次にできることは、その苗木を植えることです。

立野泰博

1960年生まれ

日本ルーテル神学校卒

東京教会、徳山教会、広島教会、など歴任

初代TNG委員長として次世代育成に取り組み、現在PM21・P1委員長

LAOS 講座 第6号 いなご豆の木
—信仰の継承—

- 発行日** 2005年3月15日
- 編集者** PM21 第2プロジェクト「証し・奉仕する信徒」委員会
委員長 齋藤未理子
- 著者** 立野泰博
- 発行者** 「日本福音ルーテル教会宣教方策21」(PM21) 推進委員会
宣教室長 推進委員長 徳弘浩隆
- 発行所** 日本福音ルーテル教会 宣教室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
電話：03-3260-1908 FAX：03-3260-1948
e-mail mission04@jelc.or.jp
- 印刷所** 精文堂印刷株式会社
-

